

## 神経内科：ギランバレー症候群

39-066 ギラン・バレー症候群について誤っているのはどれか。

1. 自覚的感覚異常がみられる。—— 感覚障害は軽度ばかりある。
2. 神経原性の筋電図所見である。—— 末梢神経の脱髄型なので神経原性
3. 軸索型の予後は良好である。不良
4. 呼吸・嚥下障害を伴う。
5. 髄液の異常所見がみられる。

46-P-090 Guillain-Barré 症候群について正しいのはどれか。2つ選べ。

1. 罹患した部位に痙縮がみられる。弛緩性麻痺
2. ウイルス感染が先行することが多い。
3. 軸索変性型は脱髄型よりも予後が良い。悪い
4. 蛋白が高値で細胞増加がない髄液所見を伴う。
5. 症状は数か月かけて徐々に進行することが多い。  
1か月までに急激に

50-A-093 Guillain-Barré 症候群について正しいのはどれか。

1. 顔面神経麻痺から発症する。四肢の遠位筋から発症する。
2. 髄液中の蛋白が上昇する。
3. 自律神経障害はみられない。頻脈、不整脈、起立性低血圧、高血圧などがみられることがある。
4. 呼吸筋麻痺はみられない。
5. 再発と寛解とを繰り返す。  
→ 多発性硬化症がある。

☆ ギラン・バレー症候群 ※ 末梢神経の脱髄型疾患

- ・ 1~2週間前に先行するウイルス感染症状(風邪様)
- ・ 遠位筋から左右対称的に筋力低下が進行、腱反射↓
- ・ 重症例では呼吸筋麻痺(人工呼吸器)
- ・ 脳神経では顔面神経麻痺が生じやすい
- ・ 感覚障害は軽度
- ・ 1ヶ月までに進行が停滞、近位筋から回復
- ・ 軸索型と脱髄型があり、軸索型は予後不良
- ・ 髄液の細胞数増多のない蛋白増加がみられる